

CS こひつじ科 礼拝式次第

2020年6月14日 午前9時30分

2020年度年間テーマ：「神は今も語っておられる。御言葉の恵みに生きよう。」

テーマ曲： ワワワいっしょに (92番)

暗唱聖句：「この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。」
テモテへの手紙 二 3章15節

[礼拝動画へのリンク](#)

[礼拝音声へのリンク](#)

7、すずめやはとを (かみふくおかきょうかいこどもさんびか7番)

おいのり

せいしよ しへん139へん1-6せつ

139

6 その知識は、私にはあまりに不思議
高すぎて及びもつかない。

5 前からも後ろからも私を囲み
御手を私の上に置かれる。

4 私の舌に言葉が上る前に
主よ、あなたは何もかも知っておられる。

3 旅するのにも休むのにもあなたは見通し
私の道を知り尽くしておられる。

2 あなたは座るのも立つのもしり
遠くから私の思いを理解される。

私を知っておられる。

主よ、あなたは私を調べ

聖書協会共同訳

おはなし「かみさまの大きなみでのなかにいるから」

スパーリンクせんきょうし

少年だったときに羊飼いの働きをしていたのは誰だったのでしょうか。覚えて
いるかな？そう！ダビデさんでしたね。ダビデさんは何もなかったとき、の
んびりしていたときに歌を歌うことが大好きでした。そしてよく自分で歌を
作っていたのです。私たちの聖書の中に今日も読んだ詩編もダビデが作った

歌ですよ。ダビデが他に作った歌はたくさん詩編に入っています。でもいつものんびりしているわけではありません。時々寝ている羊を狙ってライオンやクマがやってきて、羊を奪おうとすることがありました。ライオンやクマ、怖いですね。でも少年ダビデは自分の命よりも羊を守ろうとする勇敢な少年で、ライオンにでも立ち向かい、追い払うことをよくありました。どうしてそれができたのでしょうか。青年になるとダビデはあるときイスラエルの民とペリステ人の戦争の場面に出て、神様のひどい悪口を言う巨人のゴリアテに直面します。ゴリアテの背の高さは2.5メートル以上で、いろいろな武器を持っています。ダビデはまだ子供のような格好で、手にあるのはたまたま遊びに使っていた石投げだけ。この時もダビデは怖がってもおかしくないのに、逃げないで、あの巨人の額に石を投げつけ、彼を倒して、イスラエルを大きな勝利に導きました。どうしてそれができたのでしょうか。またさらにあるとき、気の狂ったサウロという王様がダビデの命を狙うことになりました。この時もダビデは心配しましたが、無事であろうと信じて結局サウロの手から救われました。どうしてダビデはたまたま危険の目にあっても安心できたのでしょうか。答えは今日の詩編にダビデが書いています。ダビデはまことの神様を知っていました。自分がどこにいても、神様が見て、守って、助けてくださると信じているからでした。

実は、神様を信じている私たちも神様がいつでも守って、私たちの周りを囲んで、どんなことがあっても助けてくださるお方です。実はあまりにも私たちのことを親しく知っておられるので、私たちがしゃべり出す前に、私たちの思いを知って、お祈りする前に私たちの必要をご存知で、祈りの答えを備えてくださいます。どこにいても何をしても、いつもご一緒です。嬉しい時に一緒に笑い、悲しい時に慰め、絶対にひとりぼっちにしません。もちろん、私たちがお母さんやお父さんに反発することがあれば、これを見て、神様は悲しい思いをしますよ。弟や妹とケンカするときも。でも、ダビデさんが分かっていました。生まれる前から神様は私たちをその大切な愛する民にしようと決め、イエス様を信じるように導き、罪や失敗があってもイエス様のために赦し、永遠の命をプレゼントしてくださいます。

明るい朝にも暗い夜にも私たちを決して離れません。離れないで、私たちをいつも常にその大きなみ手の中に 終わりまで 守ってくださいます。神のみ手が僕たちと君たちをも囲んでいるから いつでも安心なさい、神様をいつも頼りにして助けていただいたデビデのように！神様の大きなみ手の中にいるから！

(けんきん) 今日もとっておいて、きょうかいでふたたびおあいするときに
まとめてささげましょう。

52、やさしいめが (かみふくおかきょうかいこどもさんびか52番)

7 すずめやはとを

ミルトン 原詞
由木 康 訳詞 1966

チボ一 作曲

なめらかに ♩ = 112



1. すずめやはとを おそだてなさるめぐ
2. やみのなかにも ひかりをてらすさか
3. つきをのぼらせ ほしをみちびくちか
4. わたくしたちを おまもりなさるめぐ



- みのかみをともにうたおう
えのかみをともにうたおう
らのかみをともにうたおう
みのかみをともにうたおう

(神)

1. すずめやはとを おそだてなさる
めぐみの神を 共にうたおう
2. やみのなかにも ^{ひかり}光をてらす
さかえの神を 共にうたおう
3. ^{つき}月をのぼらせ ^{ほし}星をみちびく
ちからの神を 共にうたおう
4. わたくしたちを おまもりなさる
めぐみの神を 共にうたおう

52 やさしいめが

詞：深沢秋子 1974

曲：小山章三 1975

Moderato (♩=96)

1. やさしいめが きよらかなめが
 2. おおきなてが あたたかいてが
 3. かぎりのない ひろいころが

きょうもわたしをみていてくださる 「まっ
 きょうもわたしを ささえてくださる 「はな
 きょうも わたしを まもってくださる 「やす

すぐにあるきなさい」とみていてくださる
 ずにあるきなさい」と ささえてくださる
 らかにあるきなさい」とまもってくださる

1. やさしい目が きよらかな目が
 きょうもわたしを 見ていてくださる
 「まっすぐにあるきなさい」と
 見ていてくださる
2. おおきな手が あたたかい手が
 きょうもわたしを ささえてくださる
 「はなれずにあるきなさい」と
 ささえてくださる
3. かぎりのない ひろいころが
 きょうもわたしを まもってくださる
 「やすらかにあるきなさい」と
 まもってくださる